姫路神社
結婚式場

姫路城鎮護
姫路神社御由緒

徳川内府大政を奉還し、王政復古の大号令が発せられ、明治維新を迎える。

明治四年、廃藩置県の改革成るにあんで、姫路藩十代、百二十年余、世々領主として善政に勤められた酒井家も扇に、東京移住を令せられたのであります。

茲に、永年恩恵に浴した領下四民は、欽慕の情止み難く、旧藩臣大年寄、大庄屋等発起し、相謀つて、神東郡姫路本町五〇、五一、五二、番の合併地五百八十八坪余を取得し、明治十二年一月、官許を得て社殿を創建、酒井家遠祖新田義貞公の裔、烈祖正親公を奉祀し、報本反始の誠を致したのであります。

明治十七年三月、県社に加列せられ、春秋の祭儀も次第に多積盛大を極め、御霊社の呼称と共に、姫路市民の精神的支柱としてその尊崇を集めてまいりました。

然るに、この地は民家に隣接し、且つ狭隘なるを以て、大正十四年十一月、広く市民の奉賛を得て、縁故深い姫路城内官有地、一千九百七十四坪余を大蔵省より貸受け、社殿を新築、昭和二年六月御遷座、爾来奉斎して今日に至るのであります。

偶、当地は、姫路城天守閣の東北隅の要地を占め、春は桜花爛漫秋は紅葉彩る神域にして、まさに姫路城鎮護神社に応しい立地を兼ねるというべきであります。

昭和三十六年十月、酒井藩歴代城主を配祀し、名実共に姫路城鎮護神社として鎮座されるのであります。

境内社
寸翁神社

姫路藩経済民の先覚者、河合寸翁命を祭祀する。

河合寸翁命は、播州一円の産業の開発、経済の振興に多大の貢献があり、現在の大姫路市の産業発展の礎を築かれた。

又、仁寿山黌を起し、漢学稲山院、大国隆正らの学者文人を招聘するなど、文学振興の祖となる。藩政第十九代藩主である。昭和三十二年、商工業界の有志賛仰により社殿の建立成る。

境内社
岩倉稲荷神社

農工生産の神と仰ぐ倉稲魂大神を祭祀する稲荷社、古来より姫路市坊主町鎮守として奉斎したが、大正十四年、御神殿あって当社境内に遷座された。節分追儺式、湯立等の祭事が奉仕される。

河合寸翁像
至心帰命

①近くからの湧水が
内堀の始まりとなる

内堀の始まり①

内堀北側の公園